

蓬萊町だより

第四十六号  
平成8年10月30日  
発行 蓬萊町会  
編集 者 文 化 部

蓬萊町界限 (その四十)

江戸の華と火消し (二六)

林 順 信

今回も横丁のご隠居にご登場願いました。話の聞き手には町民を代表して、「八つあんと「熊公」に一任することにしましたので宜しくおねがいます。(林)

◆お祭りとお頭のこと

(八子) ご隠居、先立って根津神社のおまつりがあったんですが、神社の神幸祭のときいろいろ世話をやいているのは確か頭たちですねエ…?

(隠居) そうだね。神幸祭つてえのは、神様が輿や輦にのられて、氏子町内を隈なくお廻りになつて、

禍いを遠ざけ、福を授けられるのだが、神官、氏子總代に、頭連中の木遣りなんかが大抵はつきものだよな。

(クマ公) あの行列が神社を出る「宮出し」のときと、神社に帰って来る「宮入り」の道中なんか、

なかなか荘厳でいいもんだよなあ。

(隠居) あのとときは、頭連中が木遣りを歌うんで、あの合唱が明空に吸い込まれて行くのを見てると、あ々東京に生まれてよかつたねエなんて感ずるものだよ。

(八子) 木遣りてエのは元々は仕事のとくに歌つたんでしょう?

(隠居) うんそうらしいね。何でも名古屋城を築くときに、石垣の石が余りでかいんで、テコでもコ口でも動かねエということだった。そこで石を舂もうせんでくるんで、その上に白柏子を乗せて、みんなで音頭をとって綱で引っぱつたら、またたく間に巨大な石も引けちゃつた。そのとき歌つた労働歌が木遣りの元祖だなんていうけど…。これどうかな…。

(クマ公) 歌に「兄じゃ二階で木遣りの稽古」なんていうけど、鶯頭たちの木遣りの会があつて毎年どこかで発表会があるんだつてね。

(八子) そうだよ。亡くなった千駄木の杉本の頭は木遣りの師匠なんだつたね。今は

白山御殿町の高柳の頭なんかは、都内でも指折りの名人といわれてるんだよ。第四区の頭はなかなか木遣り上手だつて言われてるよ。

(隠居) 木遣りにもいろいろあつて、建前のと

きとか、祝宴をあげるときとか、使い分けがあるらしいねエ。

(クマ公) 神幸祭のとき、神田祭や山王祭のときも、根津権現祭のときも「各区」つてエのがあるんだよな。「今日は各区だからすげエヤ」なんてね。

(隠居) そうだね。都内の第一区、第二区、第三区、第四区、第五区、第六区を中心に、各区から赤筋の頭たちを中心に、木遣り道中に参加することが、各区から「出役」といつて加わるのでそう呼んでるのさ。赤筋の半天とは、組頭、副組頭、小頭の三つの役どころは、半天に赤い筋が入っているんだよ。組頭はひとりときまつてるが、副組頭(副役とも言う)は二人のことも、三人のこともある。小頭は更に三人とも四人とも居ることがある。

(クマ公) じゃあ、各区となると赤筋だけでも百人くらいになるから、ご祝儀だつて大変だよなエ、きつと…。

(隠居) ご祭礼というのは、そこらが費用のかかるところだよ。

(八子) 行列の先頭の中央を歩く頭が、そのお宮の責任の頭なんだよなエ。

(隠居) ハチ公もいいところに気が付いたね。それを「宮頭」と呼んで、神幸祭のすべてを仕切るの責任重大なんだ。

根津神社の場合は第四区一番組つまった組の

組頭が宮頭というわけだ。でも第四区全体の總代となると第四区二番組の高柳さんだから、御殿町の高柳さんの場合は根津神社のときも湯島天神のときも先導をするわけだね。

(八子) 湯島天神は昨今湯島天満宮という名前に戻ってますね。ここは第四区一番組た組の持ちなんだね。

(クマ公) 神田明神の場合も、氏子範圍は第一区が多いのに、明神様のある神田宮本町が元々は本郷台で、鳶頭は第四区五番組、錦町の増岡さんが宮頭なんだから、第四区つてえのも大したもんですね。

(隠居) 東京の鳶の者の半天の裾には白い線が入っている。第一区は一本、第二区は二本と次第に数が増える。第一区、第三区、第五区など奇数は直線で、第二区、第四区、第六区など偶数は波線となっているから、今度気を付けて見てごらん。

#### ◆町御輿の世話も頭の仕事

(八子) おまつり堤灯なんか、頭のうちのおかみさんや娘さんの内職みたいだね。あの軒ぎょうちんを指す斜めに小竹を切ったのを直角に組んだ付け木に釘で止める。夜なべに仕事なんだつてね。あれ何つて言うか、熊さん知ってるかい……?

(クマ) 知つてらあ、昔、頭のとこのみよちゃんから聞いてるからね、あれ「うぐいす」つて

言うんだよね。

(八子) お前、みよちゃんに惚れてたからね。

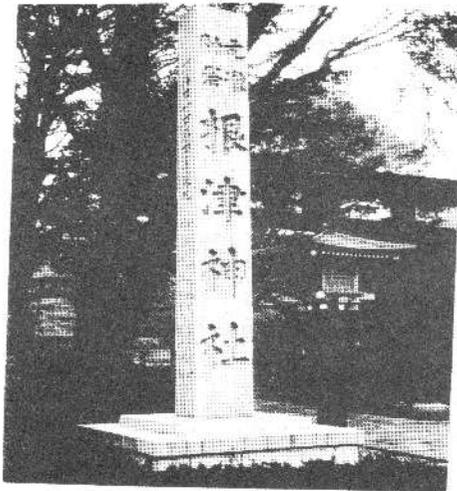
(隠居) 頭が御輿のかつき棒を組むのは見事だね。「トンボを組む」といつてね。かけやと、げんのうとで、麻縄を四角く組む。これを「繩を作る」といつてね、京都の祇園まつりの山ぼこの箱は実に見事だね。

(クマ公) ご隠居にお聞きしますが、お祭りのときに、頭が羽二重の半天で、襟字に「第四区」とだけある、しゃれた色合いのを着ている頭もいますね。

(隠居) あれは、以前赤筋だった頭が引退して、役からは引いても、町内つきあいだけを残すということがあつてね。赤筋経験者だけが、襟字に「第四区」と染めぬけるという規則になつてるんだよ。

(八子) でも、若い鳶の者も、お祭のときに、派手な絵柄の祭り半天を着ることがあるらしいですね。

(隠居) それも道具持ち、つまりはまとい持ちと梯子持ちの若衆にだけ出来る特権で、各区によつて江戸時代からきまつた絵柄があつてね。根岸にある海老屋の林さんのところには、昔からの鳶職のすべての型染めの見本があつてね、昔ながらの仕事をしているから安心だよ。今日はちよつと細かい専門的な話になつちまつたようだね。



平成8年改修時



明治44年当時(85年前)

「根津神社あれこれ」その三

池田 暉

◎ 表門社名石柱のこと

平成二年十一月、平成天皇の御大典を祝して造られた裏門整備に続いて計画された表門整備第一期事業が、八年九月に完成した。その間、神戸の大震災、バブルの崩壊等、世情の混乱の中で当初の目標に到達出来たことは誠に喜ばしい。

云う迄もなく、氏子、崇敬者、の奉賛が有つての事であるが、内海一紀宮司の厚い敬神の心と地域への誠意が、御祭神の御加護を得て具現されたものである。

さて、正門に高々と据えられた社名石柱であるが、たまたま、この石柱が立てられた当時の写真が神社に残されている。写した人や、年月は不明だが情景から見て、立てられた当時に写されたものと思われる。

表面に

元准

勅祭 (註1)

根津神社

裏面に

御相殿 菅原道真公

御祭神 素盞鳴尊 大山昨命 菅田別命

御相殿

大國主命

右側面に

内務大臣正三位勲一等男爵 平田東助 謹書

(註2)

左側面に

前根津神社社司 宮西邦惟  
明治四十四年四月建之  
根津神社社司 宮西惟助

と刻ざまれている。

・註1 維新後、明治政府の政策により「神仏分離令」が発せられ、神仏混淆の風習を禁じた。更に太政官の下に神祇官を設けて、神社格のランク付がされた。其れは、勅祭社、勅支配社、准勅祭社、の三つで、勅祭社は伊勢、以下三十社、勅支配社は諏訪、以下九社、准勅祭社が日枝、以下十二社であった。しかしこれも朝令改暮で明治四年には官幣社、国幣社、諸社、(県社、郷社、)に分けられた。

従つて、根津神社は明治新政府の認定した全国五十一社の内に入る神格であった。  
・註2 平田東助、明治、大正、期の官僚。出羽、米沢藩士の子、嘉永二年三月の生れ、明治四年、岩倉遣外使節団に随行。露国、ドイツに留学、枢密院書記官長、法制局長、農商務大臣等、歴任。三十五年、男爵、四十四年、子爵。大正十一年、内大臣伯爵となる。この社号を書いたのはこの年次から見て子爵になる直前と思われる。

先に、「蓬萊たより」第四十一号に書いた、

『根津神社あれこれ』その二』で触れたが、宝永三年、現社殿が造営された当時の神主は伊吹左京昌輝であるが、その後江戸期を通じて連綿として伊吹氏が神主を勤めていた。現在、染井にある伊吹家の墓所を訪ねてみると、七基の墓が残されて居る。中央に、

從五位下菅原朝臣伊吹昌次之墓 (昌輝の父)  
：貞亨四年七月二十八日歿

菅原朝臣昌次夫人之墓

：寛文十年七月二日

從五位下右京亮菅原朝臣昌輝之墓

：宝永三年九月二十八日歿

と三名連記の石塔が在り、並んで向かつて右に、

菅原朝臣伊吹昌伴之墓

：明治六年一月一日歿

と彫られた墓石が残っている。

昌輝の子は左門昌明であるが、この人の墓石は見当たらない。昌明は正徳四年從五位下に昇進し左京亮と名を改めている。この昇進は、根津神社の「天下祭り」として今に伝わる将軍上覧の行事と関わりが在ると思われる。

昌明は、享保八年、八代吉宗將軍の時代に病歿した。

なお、明治維新による変革当時の神主は伊吹昌

寿で、墓を立てたのは伊吹家十代目の子孫、伊吹昌夫と刻まれている。昌夫の墓には昭和四年二月二十日歿とある。

伊吹昌寿は奇しくも現存する社名碑が出来た明治四十四年六月二日に亡くなっている。

これ等の墓は、団子坂上の元根津社跡地にあつたが後に染井墓地(註3)に移されたとのことである。その後の伊吹家の消息は今の所、不明である。

・註3 明治五年、東京市は公營墓地として染井、青山、谷中、雑司ヶ谷、を創設した。

この頃に伊吹家の墓も移されたと思われる。維新後は、赤坂、日枝神社の社家であつた宮西邦維が根津神社の社司を継ぎ、四十四年当時はその子、惟助が社司であつた。(註4)

・註4 宮西惟助―明治六生れ、昭和十四年歿、日枝神社宮司。―継嗣、維喬、日枝神社名譽宮司、昭和五十七年、神社本庁長老。平成元年、八十五歳で歿。―孫、維道、昭和八年生れ、日枝神社宮司、東京都神社庁々々長、

因に、根津社の内海元、名譽宮司の御尊父、内海修造氏は宮西惟助氏の妹、つまり邦維の娘と結婚して根津社の後を継がれた。元、氏も兵役に征かれる迄は日枝神社に籍を置かれておられた。復員後、根津神社の宮司を継がれる

また、内海家は古くから神職の家系で、今年、神社本庁設立五十周年に当たつて、五十年以上

勤続の神職として表彰された江東区の東大島神社の内海利彦宮司は、内海一紀宮司の叔父様に当たる。

### 町会活動の概要

平成八年七月下旬から十月初旬まで

### 総務部

7/23 向丘地区町会連合会、町会長会議

8/4 町会経費により購入した掲示板、十枚、本日取り付け。

### 婦人部

7/20 廃品回収収益金三十万円を文社協に寄付せしことを掲示板に掲示。

### 防火防災部

7/14 地区防災講習会、誠之小学校にて。

### 交通部

9/3 駒込交通安全協会、理事会。

### 文化部

7/18 蓬萊だより45号、配布。

### 計報

当町会員で本年七月から十月初旬までに逝去

なされた方のお名前は左の通りでございます。慎んで哀悼の意を表し、心よりご冥福を祈ります。

- 依田系なち様 菊地広次様 清水春子様
- 鈴木貞子様 青樹光子様 安藤充子様

### 「根津神社」ご祭礼に就いて

町会長 小林音吉

過日のご祭礼に当たりましては、皆様にご多大のお骨折りを頂き、また格別のご協賛を賜りましたが、台風と言う不測の事態で神輿の渡御が中止となりました。皆様のご厚志に深く感謝申し上げます、御礼方々お詫びのご挨拶を申し上げます

### 平成八年根津ご祭礼会計報告

収入	協賛金	2,290,000円
支出	協賛金関係	281,073円
	設営、渡御関係	451,527円
	修理積立金	300,000円
	次期繰越繰越金	257,400円
(※従つて修理積立金合計1,800,000円)		

会計責任者、小川義信 木内裕子

堀江頼治 加藤頼美

### 編集委員

- 小林音吉、竹中一馬、川西正造
- 猪熊良晃、倉田幸一、池田暉